

2026年3月12日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 P R I S M B i o L a b
代 表 者 名 代 表 取 締 役 竹 原 大
(コード番号：206A 東証グロース市場)
問 合 せ 先 管 理 部 マ ネ ー ジ ャ ー 安 藤 幸 司
(TEL. 0466-53-8383)

Receptor.AI Inc. との創薬提携契約締結のお知らせ

本日、当社とReceptor.AI Inc. (米国マサチューセッツ州) は、タンパク質-タンパク質相互作用 (Protein-Protein Interaction、PPI) 及び膜タンパク質を標的とした新規低分子医薬品の探索に関する創薬提携契約を締結しましたのでお知らせいたします。

詳細につきましては別紙のプレスリリースをご覧ください。

なお、本件による2026年9月期(2025年10月1日～2026年9月30日)の当社業績に対する影響は軽微です。本件はPPI創薬の深化に寄与する技術を持つバイオテック企業との連携の第二弾であり、「PepMetrics® 技術」の発展の礎となることが期待され、中長期的に当社の成長可能性と企業価値の向上に資するものと考えております。

以 上



RECEPTOR.AI

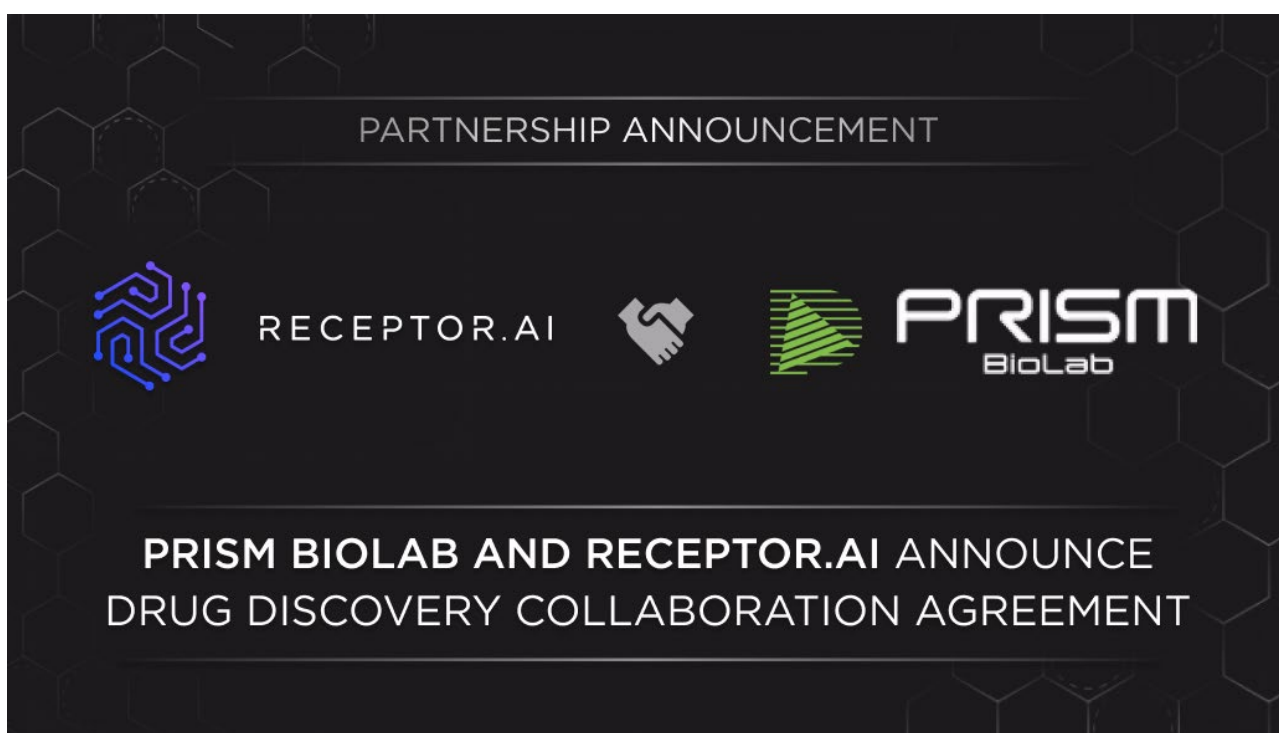


PRISM
BioLab

PRESS RELEASE

PRISM BioLab と Receptor. AI、創薬提携契約締結のお知らせ

—PPI 創薬と AI プラットフォームの融合により新たな疾患治療薬の創出と統合創薬プラットフォームの構築を目指す—



東京（日本）、ケンブリッジ（米国マサチューセッツ州） — 2026年3月12日： — 本日、株式会社PRISM BioLab（以下「PRISM」）とReceptor.AI Inc.（以下「Receptor.AI」）は、細胞内タンパク質-タンパク質相互作用（Protein-Protein Interaction、PPI）及び膜タンパク質を標的とした新規低分子医薬品の探索並びにAIナビゲート型・物理学ベースの統合創薬プラットフォームを構築する創薬提携契約（以下「本提携」）を締結したことをお知らせいたします。

本提携により、PRISMが独自に開発した α -ヘリックス・ β -ターン模倣技術である「PepMetics[®]技術」を用いた化合物群と、Receptor.AIが有する物理学的知見を取り込んだ多目的AIナビゲーションエンジンを組み合わせます。両社はこれらの技術の融合により、従来の低分子創薬では困難とされてきたターゲットに対して、革新的なヒット化合物、リード化合物、臨床候補化合物の創出を目指します。

本提携では、まず最初に代謝性疾患領域における特定のレセプターを対象として、PRISMの化合物空間と、Receptor.AIの分子設計アルゴリズムを組み合わせて分子設計を行います。並行して両社は、双方の技術の活用に関心を持つ製薬企業との共同研究機会の開拓にも取り組みます。

本提携では、一般的な共同研究のゴールとなる臨床候補化合物の創製のみならず、両社の技術の統合による新たな価値を示し、専門的なノウハウを蓄積することで、今後の協業拡大に向けた提携活動を強化することも目指しています。

「今回、Receptor.AIとパートナーシップを組めることを大変嬉しく思います。」とPRISMの代表取締役である竹原大氏は述べています。「PRISMはPPIを標的とした優れた創薬技術である『PepMetrics[®]技術』を開発し、独自のペプチド模倣低分子化合物ライブラリーである『PepMetrics[®]ライブラリー』を保有しています。『PepMetrics[®]ライブラリー』はPPI創薬だけでなく、一般的に創薬標的として広く知られている膜タンパク質など細胞外標的に対しても応用可能と考えています。Receptor.AIのペプチドから低分子にわたるAI分子設計技術により、『PepMetrics[®]ライブラリー』の可能性がさらに広がることを期待しています。」

「PRISMと協力し、細胞内・受容体関連の創薬を“より多くスクリーニングする”から“より賢くナビゲートする”へと進化させることに胸を躍らせています。」とReceptor.AIのFounder & CEOであるDr. Alan Nafiiiev氏は述べています。「PRISMの高品質かつ構造的に制御された化合物空間は、創薬プロセスを次のステージへ進化させる重要な基盤となります。私たちはQuorumMap（化学空間ナビゲーションエンジン）に、構造・物理学ベースのモデリングおよび多目的最適化を組み合わせ、結合能だけでなく選択性、細胞透過性、安定性を兼ね備えた“経口投与可能な開発候補化合物”に到達する可能性の高い化合物を優先して、計算資源と実験リソースを集中させます。我々のゴールは、難易度の高い複雑な細胞内の生物学的現象を、化学仮説に基づいた“合成・評価可能な化合物候補”に変換し、優先順位を付けて候補化合物へ変換するという、一連の創薬プロセスを再現性のある形で回す“データ駆動で最適化する創薬サイクル”を構築することです。」

PRISMおよびReceptor.AIは、「新しいアプローチで創薬に挑戦する」という共通の理念を掲げており、革新的な治療薬をより迅速に、より合理的に、そして確かな科学的根拠に基づいて生み出すことを目指しています。本提携を通じて、両社は最先端の創薬手法を相互に取り入れることでシナジーを創出し、双方の創薬技術をさらに高めてまいります。

以上

<会社概要>

【Receptor.AIについて】

Receptor.AIは、米国のテックバイオ企業であり、高度な生成AIプラットフォームを通じて前臨床創薬のあり方を変革しています。強力な技術基盤、実績、そして小野薬品工業などの日本の製薬業界のリーダーとの連携を通じて、バイオテクノロジー分野における計算科学・データ駆動型の研究開発への移行を象徴しています。

Receptor.AIの成功の核となっているのは、革新的な治療薬候補の特定と最適化を加速するために設計されたマルチプラットフォームAIエコシステムです。このモジュール型でエンドツーエンドのインフラは、創薬における最も重要な数々の課題に対応しています。

40件以上の共同創薬プロジェクトの成功実績と豊富な経験に基づき、Receptor.AIのマルチプラットフォームエコシステムは、研究者が小分子、ペプチド、誘導近接性化合物をこれまででないスピードと精度で設計できるよう支援しています。既存の研究開発プロセスにシームレスに統合可能な検証済みのモジュール型ワークフローに注力することで、Receptor.AIは大手製薬企業や世界中の学術機関にとって信頼できるパートナーとなっています。

詳しくは、<https://www.receptor.ai/> をご覧ください。

【PRISM BioLab について】

PRISM BioLab は、独自に開発した α -ヘリックス・ β -ターン模倣技術を活用して、低分子化合物によるタンパク質-タンパク質相互作用（PPI）の制御による創薬を目指している企業です。PRISM BioLab は、従来困難であった細胞内で様々な信号を伝達する PPI を制御する独自のペプチド模倣技術である『PepMetrics[®] 技術』を構築し、がんや線維症分野の臨床パイプラインを創出するとともに、国内外の多数の大手製薬会社と提携してこれまでに無い難病治療薬の創出に取り組んでいます。

詳しくは、<https://prismbiolab.com/ja/> をご覧ください。